



スタジオサブですべてのコントロールを行っている。卓左側のモニター群はバーチャルスタジオの運用端末。中央にはビデオスイッチャと大型モニターが並び、ポン出し送出が可能な MBP-100SX のタッチパネル画面が見える

oni ビジョン：バーチャルスタジオ、朋栄 MediaConcierge を核とした自主番組制作・送出設備が完成

ケーブルテレビ局の oni ビジョン（岡山ネットワーク株式会社：岡山市北区）では、この度、ニュースや音楽番組など自主番組の画質向上と内容などクオリティ・アップと地域密着性を高めるために、ハイビジョン・バーチャルスタジオの本格導入と朋栄 MediaConcierge を核とした HD での自主

番組制作・送出設備を完成させた。oni ビジョンは 1993 年に開局したケーブルテレビ局で、現在では岡山市を中心に加入世帯数 61,500 弱を数える。同局の特徴は、ケーブルテレビ局の基本である地域密着を活かして、「ふるさと」を題材としながら県民を出演者とし、ドラマ形式で郷土の文化や芸能、

人々を前面にだしながら、月 1（30 分）で 13 回（本年 4 月から 1 年間）の自主番組制作を行っている点が挙げられる。この取り組みが評価され、本年は日本ケーブルテレビ大賞の審査員特別賞も受賞している。また、取材クルーは街の隅々までを取材対象としており、速報は専用の光回線で同局に送られる。



スタジオは天井も低くコンパクトだが、バーチャルスタジオにより映像表現は大きく広がる



スタジオサブのスイッチャは朋栄の 2M/E モデル花火 HVS-3800HS で、DVE x 2、バーチャル対応機能を搭載



バーチャルスタジオのリモコン・カメラシステム



カメラシステムはバーチャル表現を高めるために、クレーン、ペDESTアル、リモコン雲台など本格的な内容



シートを外すとグリーンバックとなる



完全カスタムオーダー CG セットバーチャルスタジオの表現例



スタジオサブのモニターはマルチビューアで各映像を確認しながら送出している。バーチャルセットの運用端末からはセットや項目を簡単に変更・切り換えることが可能



サブルームのラック関連



取材データは6コーナーあるノンリニア編集で編集、素材サーバーに収録される



送出サーバー



サブルームに隣接したノンリニア編集室



リニア編集室は1室だけで複雑なテロップやタイトル挿入に対応している

今回の訪問目的は本年7月に完成したバーチャルスタジオとメディアマネジメントシステム(朋栄 MediaConcierge)にあり、高画質とバーチャルな映像で視聴者を楽しませている制作現場に伺うこととなった。同局のスタジオのメインとなったバーチャルスタジオは、54㎡のコンパクトなスタジオを大型スタジオとして表現するために、ニュース、音楽番組、市政番組といったシーンに合わせて、バリエーション豊かなバーチャルセットが用意されており、3台の本格スタジオカメラとスタジオサブのコントロールで多彩な演出効果を実現している。

バーチャルスタジオには朋栄の「digiStorm」を採用。PGM、PREVのそれぞれでバーチャル映像が確認できるように2台のCGプロセッサが稼働する本格的なシステムとなっている。運用面も考慮されており、セットや項目などを呼び出し、テンプレートに従ってテキストの入力などを行い、ボタン操作をするだけで動きのある効果的な演出を簡単に送出することができる。CGセットは朋栄の持つCGライブラリ eLibrary から20セットを購入、さらには名古屋テレビ事業に依頼して作成した完全オリジナル

セットを5セット導入し、これらセットを番組内容に合わせて活用している。例えばタフのニュース番組の際にはグリーンバックの前にスタジオセットを組み上げ、天井を含めたセット以外の部分をバーチャルスタジオにした番組演出を行い、討論番組などの際にはセットを取り払い、完全グリーンバックでのバーチャル運用で効果的な演出を実現している。

システム的には、各種メディアファイルを一元管理可能な朋栄のメディアマネジメントシステム「MediaConcierge」をファイルベースシステムの核として採用している。素材のインジェスト、データベースによる一元管理、メタデータおよびプロキシデータによる強力な検索・閲覧機能、アーカイブ/ライブラリシステムとの連携、必要なファイルの送出やビデオサーバへのデータ受け渡し、さらには各種コンテンツに最適な形式にファイル変換を行うリパーパシグまで、ネットワークで総合管理されている。

システムの特徴は、取材/編集/送出といった一連の放送・番組制作ワークフローを完全なファイルベース運用としており、他局との素材交換もファイルベースで対応してい

る。また、素材管理の一元化、送出素材登録として、ノンリニア編集機で完パケされた素材をXDCAM形式でエクスポートすると同時に「MediaConcierge」から発番された番組枠に登録することも可能としている。運用面では、素材送出としてノンリニア編集したV素材をサーバにアップした後、サブのV素材送出機でその素材をインポートすればサブからの送出も可能となっている。また、アーカイブシステムも用意されており、スタジオ番組を生放送と同時に送出サーバにて同録し、オンエア終了後にBlu-rayへアーカイブすることも可能としている。また、アーカイブ素材はバーコード管理され、「MediaConcierge」管理端末より検索/リトリブ/オンエア登録の事ができる。

トータル的に見ると、ファイルベースシステムとバーチャルスタジオという最先端の設備を導入することで、クオリティの高いコンテンツを局の顔として打ち出し、地域密着で他社との差別化を図る姿勢に非常にバランスのとれた経営姿勢と先見性を垣間見ることが出来た。



MediaConcierge の素材サーバー



FS・コンバーター：中継回線FS・アップコンバート用として朋栄のFA-9100が並ぶ



集中マシン室には素材サーバー、送出サーバーを中心に各機材が並ぶ



MediaConcierge のアーカイブシステムはマシン室に設置され、スタジオ番組を生放送と同時に送出サーバーにて同録し、オンエア終了後にBlu-rayへアーカイブする



テナントとして入るビル



始めに挨拶をされた常務取締役 森田 悟氏



お話を伺った報道制作本部 報道制作部課長 川口 剛氏



お話を伺った報道制作本部 報道制作部制作課主任 竹重 孝一氏

<主な使用機材>

「送出関連」

APC (番組自動送出システム)：朋栄 AIC-100V3
 送出サーバ：XDCAM 25Mbps 形式で100時間分の収録時間
 SeaChange
 送出エンコーダ：朋栄 MBP-100SX128G
 送出デコーダ：朋栄 MBP-100SX16G
 送出VTR：ソニー PDW-HD1500 x 2
 パナソニック AJ-HD1400
 マトリクススイッチャ：Harris Panacea 32x32HSRO (HD)
 Panacea 8x8VA20
 FS・コンバータ：朋栄 FA-9100 x 5 (中継回線FS・アップコンバート用)

素材管理 / アーカイブシステム

マネージメントシステム：朋栄 Media Concierge Proxy/DB サーバ
 Backup サーバ、
 素材管理端末、Blu-ray ドライブ、XDCAM ドライブ

「スタジオサブ 関連」

スイッチャ：朋栄 HVS-3800HS (2M/Eモデル、DVE x 2、パーチャ
 ル対応) HVS-160UA (コントロールパネル)
 オーディオミキサ：ソニー DMX-R100
 スタジオカメラ：パナソニック AJ-HPX2100、AJ-HDX900A x 2
 カメラレンズ：キヤノン KJ10ex4.5B IASE、K21ex7.7B IASE、
 K22ex7.6B IASE
 光伝送装置：池上通信 FE-100A
 パーチャルセンサ：昭特製作所 TK-59VRsys (ミニジブクレーン)、
 TP-64VRsys (ペダスタル)、
 TG-13VR ヘッドシステム (リモート雲台)

VTR：パナソニック AJ-HPS1500 x 2、ソニー PDW-F1600

送出サーバ：朋栄 MBP-100SX64G

テロップ：朋栄 VWS (TelopStation)

動画ファイル：アサカ AVR-770

パーチャルシステム：朋栄 digiStorm (Brainstorm eStudio + MBP-
 1244 + MBP-12CK) x 2

モニタ：BT-LH2550 x 2、TH-P42V2 x 2

マルチビューワ：朋栄 MV-1610HS40

波形モニタ：リーダー電子 LV5330

「リニア編集設備」

ビデオスイッチャ：朋栄 HVS-300HS

オーディオミキサ：ヤマハ DM1000VCM

リニア編集機：朋栄 EC-3000

VTR：パナソニック AJ-HPS1500、AJ-HD1400、
 ソニー PDW-F1600、DSR-2000、PVW-2800

モニタ：パナソニック BT-LH1760、BT-LH1710 x 3、

波形モニタ：リーダー電子 LV5330

テロップ：朋栄 EzV-200HS

「ノンリニア編集設備」

ノンリニア編集機：トムソンカノーブス REXCEED-MODEL6000x7

VTR：パナソニック AJ-HD1400、AJ-PCD20、AJ-PCD2G

パーチャルセット制作：(株)名古屋テレビ事業

トータル・システム設計施工：(株)朋栄

URL：<http://www.oninet.ne.jp>